

国際力動的心理療法学会 第21回年次大会
International Association of Dynamic Psychotherapy

大会テーマ
「無力感の克服」
Overcoming Helplessness

大会会長挨拶

日本において、患者の在院日数が減り地域ケアや在宅ケアが推進されるようになり、精神疾患をもつ多くの人々や身体疾患をもって適応障害やうつに陥る人々は、自分自身で身体やこころとつきあう必要がでてきました。また2003年に日本では自殺者数がピークとなり、国は自殺予防、抑うつの重度化防止に取り組むようになってきました。この流れの中で、精神疾患をもつ人々への認知行動療法や行動修正治療モデルが重要視されるようになり、一時的な認知や行動の改善もみられるようになってきました。しかしながら抑うつや不安はそう簡単には改善せず、職場復帰や社会生活の維持が困難な人々も増え、多くの企業や学校がうつを有する人々へのアプローチの方法を求めようようになってきています。

一方、国際社会においても、無秩序で不合理な事件・戦争が相次ぎ、大きなトラウマや人生における負担を抱えながら過酷な日々を過ごさざるを得ない人々が増えてきています。そしてその状況は「うつや不安」と表現される間もなく、人々を押し潰していきます。

今回、このような国内外の状況において、人々が直面している“無力感”“うつ”に焦点をあて、精神力動的なアプローチと治療が、どう有効となりうるのか、を参加者とともに吟味できればと考えています。

今回、熊本の地でこの学会を開催できることを光栄に思っております。今回の大会を通して、精神力動的アプローチと治療が、無力感克服の鍵となり、また日々の現場、各職種の人間理解とアプローチの共通理論として用いられることを切に願っております。

(大会会長 宇佐美しおり)

日時 2015年11月6日(金)～8日(日)

場所 熊本大学 本荘・九品寺地区C

〒862-0976 熊本県熊本市中央区九品寺4丁目24番1号

大会会長 宇佐美しおり (熊本大学大学院生命科学研究部 精神看護学 教授)



大会プログラム

2015年11月6日（金）

13:00-13:15 開会式

13:15-14:05 大会会長講演

「無力感克服の鍵—力動的的精神看護の立場から—」

宇佐美しおり（熊本大学大学院生命科学研究部 精神看護学 教授）

14:20-15:35 大会基調講演

「グローバル時代に失われたもの：自分自身および他者の『無力』に関わる個人と集団の力動」

小谷英文（PAS 心理教育研究所理事長、国際基督教大学名誉教授、IADP 理事長）

15:50-17:50：スタートアップセミナー「力動的アプローチへの第一歩」

2015年11月7日（土）

9:00-15:00 「ワンデイ訓練ワークショップ（One-day training workshop）」

15:15-16:45 公開スーパービジョン

17:00-19:30 専門家向け公開プログラム

20:00-22:00 懇親会

2015年11月8日（日）

10:30-12:00 事例検討

12:00-14:00 ランチタイム、理事会、総会

14:00-16:00 全体ケースセミナー

16:00-16:30 閉会式



事務局より

プログラムの詳細や大会参加手続き、宿泊等に関するその他のお知らせは、6月中旬頃にお送りします。

尚、学会ホームページで随時情報を更新しております。こちら(<http://www.iadp.info/>)も併せてご参照下さい。



国際力動的心理療学会第21回年次大会 事務局
熊本大学大学院生命科学研究部精神看護学講座
〒862-0976 熊本県熊本市中央区九品寺4丁目24番1号

Tel & Fax: 096-373-5511

メールアドレス: miyas@kumamoto-u.ac.jp

大会会長 宇佐美しおり 事務局長 宮崎志保

IADP International
Association of
Dynamic
Psychotherapy